

して該圓筒の表面には縦の方向に數多の隆起を作り極片は之を楔形として其端邊を圓筒の縦隆起に向け且つ大體に於て夫れと並行せしめたるを特徴とする磁選機。

**苛性アルカリ溶液に依るアルミナ材料分解方法**  
(7年特許公告第 382 號、公告 7-1-29、東京市、古河電氣工業株式會社) アルミナの分解速度並に分解率を大ならしむると共に溶出する珪酸量を極力少ならしめんとする目的を以てオートクレーブを用ひアルミナ材料を苛性アルカリ溶液又は之に少量のアルミナ及炭酸アルカリを溶解せる溶液を以て加壓分解するに際し最初濃厚アルカリ溶液を使用して分解を行ひ次にオートクレーブ内に水を壓入せしめて分解液を適當に稀釋し尙オートクレーブ處理を繼續することを特徴とする 苛性アルカリ溶液に依るアルミナ材料分解方法。

**アルミニウム鐵** (7年特許公告第 383 號、公告 7-1-29、鹿兒島市、乾和之) 高き硬度及抗張力を有し容易に剝脱せざると低温度に於て接合せしめ 附着力強き優良なる Al 用鐵を得んとする目的を以て Al 2.78 乃至 7.06

%, Zn 2.78 乃至 10.64%, Pb 5.55 乃至 11.35%, Cd 2.78 乃至 7.09%, Sn 86.09 乃至 63.75%, P 0.02 乃至 0.08% を含有せるを特徴とする Al 鐵。

**特 許**

**骸炭の乾式冷却法** (特許第 94038 號、特許 6-12-26 白耳義國、ユニオン、シミック、ベルジュ)

**アルミニウム合金** (特許第 93963 號、特許 6-12-17、英國、テニスン、フレイザー、ブラッドベリー)

**金屬及其酸化物より成る微粉製造法** (特許第 93875 號、特許 6-12-10、東京市、古河電氣工業株式會社)

**アルミニウム合金** (特許第 93874 號、特許 6-12-10、東京市、古河電氣工業株式會社)

**海水に對する耐蝕性大なる合金** (特許第 93870 號、特許 9-12-10、大阪市、住友伸銅鋼管株式會社)

**硫黃礦より純精硫黃を製煉する 助媒劑利用の三別式分離方法** (特許第 93814 號、特許 6-12-4、尼ヶ崎市、松原俊造)

**ユニオン構築鋼** 同鋼は獨逸國デュッセルドルフ市製鋼合同株式會社の創製に係る含銅クロム鋼にして在來の構築鋼材の缺點を最も改善されたるものにて其特徴性能は降伏點に於ては肉厚大形鋼材にて平均 24-25t/in<sup>2</sup> 抗張力 33-40 t/in<sup>2</sup>、伸長率平均 23%、衝擊値平均 80

lb/ft 疲勞應力良好、時效に對する變質性極少、加工容易特に熔接作業良好、耐酸耐大氣暴露等も此種鋼材中最も優秀、製鋼、鑄造、壓延造形容易、鋼質均齊にして肉の厚薄大小による降伏點の偏差僅に 1.5t/in<sup>2</sup> なりと云ふ獨逸國立材料試驗所試驗成績掲表の如し。

ユニオン構築鋼材料試驗平均成績 (獨逸國立材料試驗場にて行ふ)

鋼種	型種 (mm)	試 驗 片 採取箇所	處 理	降伏點 每平方 吋/噸	抗張力 每平方 吋/噸	延伸 率%	斷面 縮少 %	降伏點と 抗張力と の比 %	屈曲 試 驗
ユニオン 構築鋼材 第 1 種	ユニバー サル鋼 500×22	中央部及端部 より平均に	輾壓の儘 °C	24.4	34.1	23.7	62	0.72	可
			燒鈍 900 度半 時間空氣冷却	24.2	34.5	20.9	61	0.70	〃
	ユニバー サル鋼 650×13	〃	輾壓の儘	23.4	35.0	21.4	63	0.67	180 度に屈曲せる 際龜裂を生ず
			燒鈍	23.8	34.9	23.9	66	0.69	可
	L-50× 100×9	平 均	輾壓の儘	24.2	34.9	22.9	54	0.70	〃
ユニオン 構築鋼材 第 2 種	I-NP42½ ユニバー サル鋼 1,200×14	腹部及フラン ジより平均に	〃	25.2	37.2	20.2	57	0.68	180 度に屈曲せるも 龜裂無く 2 枚に折枉 げらるゝに及び多少 の龜裂を生ず
			中央部及端部 より平均に	〃	23.1	35.8	20.7	63	65.0